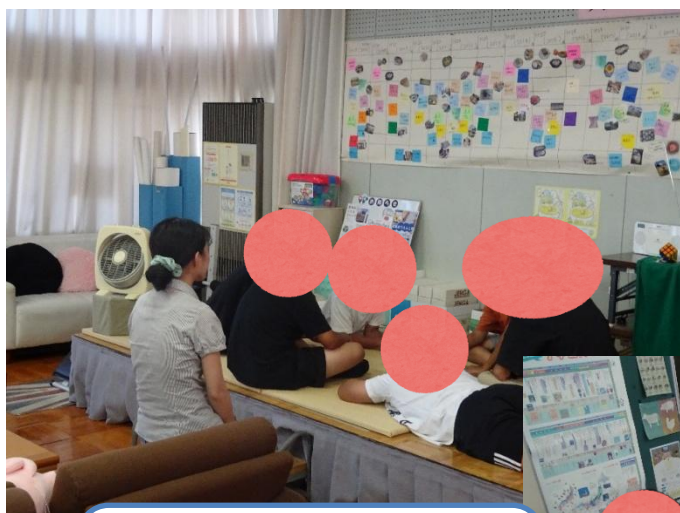


スペ-GUN-NEWS

第 49 号



スタッフも一緒に人狼ゲーム！
わいわい、ときどき…

「子どもの権利実行委員会」の
みなさんが来館！カルタも体験
してもらいました😊



この夏は酷暑が連日続き、さすがに身体も悲鳴をあげる寸前でした。
国内最高気温の記録が更新される度に、地球が悲鳴を上げているのが伝わってきます。
更に、追い打ちをかけるように熊本を再び襲った大地震や千葉の豪雨等の天災。
被災された皆様に、心からお見舞いを申し上げ、一日も早い復興をお祈りしています。

◆◆◆ 子どもの居場所「リリーフ」より ◆◆◆

今年もとても暑いですね。子ども達は暑い中元気にリリーフに来てくれています。

4月に新学期が始まり、スタッフと勉強をする子が来ていました。自分のペースで少しずつ頑張っていました。新しいクラスになり先生の話で盛り上がる男子もいました。

毎週決まった曜日にリリーフに来てくれる子どももいます。編み物も上手で、おしゃべりに花が咲きます。今後の進路に向けて頑張っているようです。



子どもたちの中には、スタッフの対応で特に情報共有が必要な子どももいます。その子が幸福でいられるよう願うばかりです。

元気な運動部の子どもたちは、5月に初めて来てくれリリーフを気に入ってくれたようです。夏休みが始まり毎日暑い中、元気に来てくれていました。午前中は部活午後にはリリーフで元気に遊ぶ姿を見ていると、きつい・くたびれたの言葉など知らない！という感じでした。

持って来た宿題もそこそこに卓球でみんな盛り上がりました。ちょっとした言い合いになる子どもいますが、その後もみんなで大笑いしたり、仲良く遊んだりしている様子を見ると、かわいく、ほほえましいです。これからも、かわいい子ども達、元気な子ども達を見守りたいと思います。

夏休み、みんなでかき氷を作って食べました。子ども達は喜び、おいしく楽しい時間になりました。今年も宿題おうえんし隊を計画しましたが、子ども達が宿題等持ってきてリリーフで勉強！とはなりませんでした。きっと、自宅で頑張っているんでしょうね。

M

◆◆◆ 適応指導教室「ぐんぐん」より ◆◆◆

今年度は4月中旬始動、例年より早いスタートとなった「ぐんぐん」です。(実をいうと、春休み中に体験通室してがんばっていた子も！) 7月末の時点で、小中学生合わせて10名ほどが通室しています。

昨年度からその傾向はあったものの、特に今年度は小学生の相談が多くなっています。中でも、小学校低学年のお子さんは、座学中心の中学生とはアプローチの仕方が全く違うので、スタッフ側も試行錯誤です。

とにかくからだを動かしたい子、好奇心が強くおしゃべりが止まらない子、スタッフとの関わりを強く求めている子、など本当に色々な子がいるので、ひとりひとり、今何が必要なスキルなのか模索しながら進めています。マンツーマン対応の強みですね。

「ぐんぐん」内でできる運動は限られています。中学生には「卓球」が主流ですが、小学生には「ポッチャ」も人気があります。パラリンピックの正式種目にもなっているスポーツなのですが、ご存じでしょうか？ シンプルなルールなのに、毎回違った難しさや面白さがあり、やってみると奥が深いなと感じます。最後まで勝ち負けがわからないのも楽しいです 😊



中学3年生は、進路選択の時期です。夏休み前から、相談会や見学会に足を運び、自分に合いそうなところを選び、受験。早いところは秋には決まってしまう。（最近ほんとに早い！）

この流れにタイミング良く乗れる子はいいいけれど、気持ちや体調、環境が整わず、出遅れてしまう子どもどうしても存在します。焦ってしまう親御さんのサポート、受験できるところやあらゆる可能性をふくめた手立ての提案、学校や関係機関との連携など… 本人に対しては「待つ」しかできないことも多いのですが、「ぐんぐん」では本人以外へのサポート・支援もおこなっています。進学しない、という選択をしたとしても、18歳までは居場所「リリース」での受け入れが可能なので、本人にはそちらで関わっていくことができます。どの道を選んでも、一人じゃないよ、居場所があるよ、と伝えることが大切だと思っています。

S

◆◆◆ 理事長 より ◆◆◆



<法人設立20年をちょっとだけ振り返って?!>

《 Part1 》

前回のスぺーGUN-NEWSでも書きましたが、「NPO法人スペース de GUN²」は、この8月18日をもって、設立満20年を迎えました！正直ピンと来ていない自分がいます。“10年ひとむかし”。20年だから“ふたむかし”ということでしょうが、だから?!って、感じなのです（笑）そこでちょっとだけ、その“ふたむかし”前、を思い出してみようと思います。

NPOを立ち上げる前は、行政の教育相談員として活動していました。スタートして間もない教育相談室での勤務。頻繁に相談もない日々でした。子どもや親の相談を受けるためにも、子どもの実態を知る必要があると考えていました。子どもと関わりたい！と色々考えていましたが、子どもに会いたいならこちらから出向くしかない！と当時の教育長にお願いをして、中学校内に相談室を開くことにしました。スクールカウンセラー（SC）の導入が始まった頃で、週に一回SCが使う部屋が確保されていました。SCとは違う曜日に部屋を使わせてもらい、昼休みや放課後に「心の教室」と名付けた部屋で子どもたちに声をかけ、顔を覚えてもらうことから始めました。回を重ねる毎に、子どもたちと会話ができるようになり、親への思い、教師への感情、学習への不安、進路、友達との付き合い等、本当に多く話を聴き、感じ、時には、担任の許しを得て授業時間に子どもと話し込んだこともありました。そういえば、体育の時間に、破れた制服のズボンを預かって、縫ったこともありましたが、今だから言えますが、先生から怒られて逃げてきた子をかくまった?! こともありましたが（笑）“子ども”特に“思春期の子ども”を学ぶことができた、貴重で、有意義な時期でした。SCほど専門家ではないけれど、話を聴いてくれる親戚のおばちゃん？みたいな存在を目指していました。まさしく、NPOの活動を始めるきっかけとなった子どもたちとの出会いでした。あれから20年の時が過ぎて今があります。



さすがに、今は子どもと直接関わる機会こそ少なくなりましたが、居場所で子どもの様子を観察したり、スタッフが子どもたちと関わる上での助言をしたり、関係機関の方々と子どもに関する情報を共有して、子どもにとっての最善の利益は何か？を考える日々です。つまり、やっていることは、NPOを始める前も今も変わらないというわけです。現在の居場所で子どもと関わるスタッフは、それぞれの持ち味を生かして、まさに“近所の顔見知りのおばちゃんや親せきのお姉ちゃん”みたいな立ち位置で子どもと関わってくれています。月日を経て、子どもとの関わりは、NPOの活動に“受け継がれて”います。

《 Part2 》

居場所作り活動を始めて1年足らずで、不登校（たしか、当時は登校拒否児と呼ばれていたね）の子どもとの出会いがありました。実は居場所を始めると決めた時から、いつかは不登校の受け入れをしなくては！という覚悟をしていました。当時、不登校は問題行動として位置づけられていて、学校に来られないのは、“子どもに問題がある”という捉え方が主流でした。しかし、私たちの目の前に現れる不登校の子は、学習の積み重ねが不十分で自信を無くして、それを親にも教師（当時の先生は“高いところ”から子どもを覗いている方が多くて、子どもは気楽に話せる存在ではなかったように思います）にも話せない様子でした。中学生にもなって甘えるな、勉強はわからないなら先生に聞けばいいだろう、子どもの仕事は学校に行くこと！といった具合で、子どもに寄り添う保護者は今よりも少なかったようでした。

志免町で子どもの権利条例がスタートして間もない頃でしたから、子どもの状況を条例に照らして考えることも心掛けていました。条例は、子どもはいつでも、どこでも、安心して自分らしく過ごせる、というコンセプトです。ということは、不登校は、学校の中で子どもが安心して自分らしく過ごすという権利が保障されていない、ということ。しかし、当時はそんなこと言おうものなら、「は～？」と眉を顰められるような時代でした。当時は、家庭でも学校でも、安心して自分らしく過ごす、という子どもの権利が保障されていない事態も多く、頭の中は子どもの現実と子どもの権利条例がぐるぐる巡っていて、子どもの最善の利益とは？を考えながら、葛藤する日々でした。今は、ようやく、子どもの権利が“少し”だけ理解され、保障されつつあるかな。世の中がちょっとだけ、変わってきたかな、と感じています。



居場所は、午後から開館して子どもたちの受け入れをしていましたので、不登校への支援は、午前中の時間帯を使って始めました。最初の受け入れは、中学校の先生からの相談で始まりました。当時は中学生の不登校が問題視されていて、私たちも、主に中学校にぐんぐんの存在を知らせていました。しかし、あまり興味を持ってもらえず、校長先生にぐんぐんの存在を話しても、軽くあしらわれることが多かったことを鮮明に覚えています。しかし、相談してくれた先生は、個人的に電話をかけてこられて、中学生に積極的にぐんぐんを勧めてくれていました。ぐんぐん受け入れ第1

号の中学生は、家庭では学校に行けないことを叱責されていたようですが、担任は、しっかりと寄り添ってくれていたようで、当時としては、画期的なことでした。その後、不登校に関わる施設と

してもうじき20年です。活動が続けてこられたおかげで、今は町立小中学校とはいつでも子どものことを話し合えるようになっていきます。

そして今、ぐんぐんでは小学生も受け入れるようになりました。実は、小学生を受け入れるようにした時も、最初は高学年のみとして、低学年の内は、出来る限り学校で対応してほしい、という思いでいましたが、今はそうも言っていないのが現実です。今回のぐんぐんからの報告にもあった通り、小学生の子の利用が増えているのは20年目を迎える少し前、昨年あたりからの傾向です。大きな変化です。学校行けない、と苦しんでいる子ども、その保護者の思いを考えると・・・子どもの最善の利益を考えるとその保護者の思いを受け取ることも重要だと考えています。



この20年、目の前にいる“子ども”を観ながら、“子どもの最善の利益”を求めてきた気がします。そこにスタッフの存在があります。何と云っても、居場所のスタッフが、子どもの様子に柔軟に対応してくれて、子ども一人ひとりの特性や得意・不得意を、日々の関わりの中から見つけ、受け入れてくれたこと。

ぐんぐんでは、教材研究をしながら、計画を立て、子どもに合った適切な対応をしてきたことが、活動が続けるための最も大きな力です。そして、私たちの活動を温かく見守って応援して頂ける会員の皆様の存在と、行政や関係機関の活動への理解と協力は、活動を存続する上で不可欠です。どれが欠けても活動は成立しませんでした。感謝の気持ちを忘れずに、と、ずっと思って活動をしているつもりですが、感謝の気持ちを改めてお伝えします。ありがとうございます。

さて、最後に、この夏、久しぶりにボランティアの大学生が来てくれています。夏季休業中のことではありますが、新鮮です。子どもと関わってもらえたらと思いますし、我々の活動が、大学生にとっても何か意義のあるものになるといいな、と思っています。

居場所の活動からスタートして、不登校の受け入れをするようになったこの20年を、ざっと振り返りました。あっという間の〇〇年、と言いますが、大きな事故や事件もなく活動ができたからこそ、そして今もトラブルを抱えることなく、ひたすら子どもたちの笑顔に支えられて、それを糧に活動ができているからこそ言える、“あっという間の20年”です。もうちょっと?! 頑張ってみようと思います。どうかよろしくお願いします。



2007年2月、西日本新聞に載せていただいたときの記事です。
なつかしい!

◆◆◆ スタッフコラム ◆◆◆

1年前にワンコ(ポメラニアン♂)を迎えました。当初は、夜鳴き、食の選り好み、噛み癖、トイレの失敗、イタズラなど(壁に穴を掘られたことも！)、いろいろ悩まされ、育児ノイローゼならぬ育犬ノイローゼになりそう！と思うほどの怒涛の日々でした…😓

そんなエネルギーのかたまりのうちのワンコも、お友だちワンコと遊ぶ中で「犬社会」を学び、やっと少し落ち着いてきました。人間も犬もいろんな「関わり」が大切なんだと実感しています。

秋には新たに1人家族が誕生する予定で、次は我が子の育児に奮闘する日々が始まります。十数年、ぐんぐん・リリーフで子どもたちと関わりながらたくさん大切なことを学ばせていただきました。長年にわたり支えてくださった温かい職場のみなさんには感謝の気持ちでいっぱいです。産まれてくる子どもにこんなこととしてあげたいな、あんなこと一緒にできたらいいなと思いが膨らむ一方、親になる責任に不安になったり。でも何か悩んだときには、ここには百田先生をはじめ、スペGUNのみなさんがいる！なんと心強いでしょう。周囲のお知恵やお力を借りながら、いろんな方との関わりを大切にしながら、がんばりたいと思います！そろそろ産休に入らせていただきますが、自分も成長してまた戻ってきたいです！

(以上、育犬奮闘記と育児への決意でした！笑)



T

◆◆◆ いつもありがとうございます ◆◆◆

NPO法人の活動は、皆様からの会費・寄付金に支えられています。

いつも温かいご支援・ご協力ありがとうございます。

毎年多額の寄付金を続けてくださっている方もおり、本当に感謝でいっぱいです。

年会費は4月から翌3月までを1年間とし、“寄付金”は年間を通して随時受け付けています。



NPO法人 スペース d^e GUN²

事務局 〒811-2202 福岡県糟屋郡志免町志免3-1-22
お問い合わせ先 **090-9470-5749**
または **092-577-4098**

ブログはこちら↓

